

深みに漕ぎ出して

網を下ろせ!



カナンプレイズチャーチ 国内宣教師

長沢 崇史
Nagasawa Takafumi

この国の未来はどうなっていくのか。それは次世代に生きる若者たちにかかっている。

今、日本の未来を担う若者たちの間でどのようなことが起こっているのか。

神学校を卒業する際、私は主に導きを祈り求めていた。私が重荷を与えられ、ビジョンとして持っていたのは、若者の救いだ。そのため何が出来たのか、主に聞いていた。主が私にくれた答えは、「深みに漕ぎ出して網を下ろして魚を取らなさい。」(ルカ五章四節)だった。

《この国を救う網》

漁に必要なのは「網」である。失われた魂を救うために神がこの国に必要とされたのは網だ。

では「網」とは何か。網とはネット、つまりネットワーク。私は一人一人の繋がりが神の手に握られた

網となることを確信した。今はインターネットなどの普及で様々な形で繋がりが生まれる。しかし、私はもつと生々しい繋がりを必要とした。

以前から地元北海道では、若者が教団、教派を越えて集まっていた。共に賛美し、街のために祈り、励ましあい、伝道する。時間を共有しあうことで一致が生まれていった。

二〇〇五年春、私たちは沖縄でも同じような繋がりがあつた。聞き、すぐに沖縄に連絡を取った。共に日本のために北と南で祈ろう! そのようなビジョンを受け沖縄で集会を開いた。

この時から北海道と沖縄の若者たちの中で日本に対する強い神の計画と一致に対する飢え渴きが起こつていった。そして、やはり本土の若者と繋がっていきなさいという願いが起こされた。

私はちょうど関西にいたので、関西でも多くのユースリーダーと繋がりが与えられていた。そのリーダーたちに声をかけ、北海道と沖縄からもリーダーが集まり、二〇〇六年十二月、全国縦断のユースネットワークを作っていくことを皆で誓った。

そしてその一歩に、ただキリストという御名で繋がりが、キリストにのみ望みを置き、それによって二〇〇七年大阪で「本」という全国集会を開いた。全国約三十道府県から延べ二五〇〇人以上の若者が集まった。その集会にはゲストも講師もいなかった。メッセンジャーは皆二十代。中高生が次々と神との出会いを証しする集会だった。彼らが必要としていたのは、キリストだけだった。

今、この国の失われた魂が必要としていられるのも、キリストである。キリストという名前が、この国の唯一の救いである。そこで作られた「網」は今、全国各地で具体的に地域に合った形で展開され続けている。

関西ではこの二、三年でどの県にもユースによるネットワークミニストリーが起こつた。

さらに、今までにないことが起こつている。今までそのような繋がりが

は都会では珍しくなかった。しかし、今ユースの繋がりが著しく起こつているのは地方においてだ。

東北は閉鎖的と言われ、自殺率もずつと高い。若者も少なく、風通しの良い場所とは言われてこなかった。しかし、その東北で今若者が一致し、繋がりが始めている。

仙台で賛美を中心とした伝道ユースミニストリーが発足し、毎月若者が共に賛美し、祈り、伝道ライブを展開している。

青森にもユースミニストリーが生まれ、同様に若者たちが自発的に働きかけている。

昨年、今年と、大型のネットワーク集会も行われ、今年は延べ二百人を越える若者たちがこの閉鎖的と言われ続けてきた東北で集まり、一致して東北の救いのために祈った。

日本で最も教会が少ないと言われている地方がある。富山、石川、福井からなる北陸地方だ。教会が少なければ当然若者もいない。教会に二人いるのが普通。時には一人もいないことも珍しくはない。そんな北陸においても神は失われた魂を救うための「網」を作られている。

「本」に来ていた二人のユースリーダーに神様は北陸において「網」

を作るようチャレンジした。彼女は知っているユースに声をかけ、二〇〇八年三月、福井において二回目の集まりが行われた。十四、五人の若者が集まった。それから定期的に集まり、共に賛美し、祈り、北陸におけるビジョンを分かち合った。神様は次々と若者を繋げ、三県から五十人以上が集まるミニストリーへとなっている。若者がいない北陸でも着実に神の手にある「網」が出来ていつているのだ。

さらに、東海地区、山陰地方、四国、九州においてもそのような若者たちが次々に起こされている。みなそれぞれの地域に重荷と責任を持ち、その地を変えるために繋がり、立ち上がっている。

彼らは知っている。この国が必要としているのは、方法やビッグネームではない。「イエスキリスト」だ。イエスキリストが唯一の救いであり私たちがこの名においてしか一致できない。

今この国で急速に繋がっていく若い世代を見て、思わされていることがある。

私はある時までそれは特別な世代だからだという傲慢な思いを抱いていた。しかし、神が私に思い起こさせたのは、日本の「救と救い」のために涙を流して祈ってこられ

た先輩のクリスチャンたちの姿である。その祈りの実はもしかしたらその時はそれほど見られなかったかもしれない。しかし今、その実はちゃんと次の世代の若者たちの中で見え始めている。私はそのことを先輩のクリスチャンたちに感謝しても、し尽せない。

《世界の光》

では、作られたつある網はどのようにして深みに出て行くのか。霊

まず、深みとは何なのか？ 霊的な意味においては「足の届かない所」、つまり何かにしがみついている」と、言い換えると自分の力だけではどうすることも出来ない所である。

イエスの御手にしがみついているければ霊的な面において深みには行けない。それは信仰のチャレンジであり、歩けないところを歩くようなものである。しかし、イエスは「深みに漕ぎ出せ」と言われた。浅瀬ではイエスの言う大収穫は見れないからだ。

では具体的に深みとはどこだろうか。魂がいる場所である。漁といるのは待っていても出来ない。魚がいる場所に行かないといけない。そのような場所を徹底的に探し、調べ、タイミシングを見計らう。教会は時に待っているだけになっている

ように思う。

若者が救われるためには、若者がいる場所に行かなければいけない。それはただ、場所だけのことを言っているのではなく、若者の文化、スタイル、時間帯全てを含めて、言わば「若者の世界」に飛び込むということだ。時にそれは大きなチャレンジかもしれない。自分を捨てなければいけないかもしれない。葛藤があるかもしれない。しかし「深み」というのは待っていて何かなる場所ではない。

今全国で作られていつている「網」は各地域で着実に「深み」へ漕ぎ出している。それぞれに与えられたスタイル、方法で各分野に遣わされている。

ある者はスポーツを通して、ある者はダンスを通して、ある者はバンドを通して、ある者はファッショを通して、待っている魂の元へ様々な形で出て行き救いを見ている。

イエスは「あなたがたは世界の光です。」と言われた。私たちの正体は「世界の光」である。光は暗闇で輝くためにある。光を必要としているのは暗闇である。イエスは私たちが暗闇で輝く光となることを使命とされた。

クリスチャンが教会のことばかり考えて光を外で輝かすことを

避け続けていては闇の現状は変わらない。教会の中での尊厳などどうでもよい。出来ることからやっていく必要がある。

若者たちが繋がりに立ち上がるのを見る時、誰も見たことも、聞いたことも、心に浮かんだこともないことがこの国で現れることを主に期待せずにいられない。

第2回 ミョンソン教会早天祈祷体験ツアー開催決定

韓国のリバイバルは早天祈祷にあり。

早天祈祷の祝福と秘訣を早天祈祷会世界1のミョンソン教会に学ぼう！

日程 ■ 2011年2月28日(月)～3月3日(木)

場所 ■ ミョンソン教会

ソウル特別市江東区(カンドング)明逸(ミョンイル)1洞330-5

※詳細は後日お知らせいたします。

主催:日本民族総福音化運動協議会

